

6年生 道徳学習指導案

場 所：6年生教室

授業者：鈍渡 隆光

1 主題名 伝統文化を受け継いで

2 教材名 「千年の瓦を作る 山本清一」〈出典：文溪堂 6年生の道徳〉

3 主題構成表

■内容項目 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。

■価値の分析

- ・私たちが現在のように生活できているのは、先人のおかげである。そのことを意識し、先人の努力に感謝することは、自分の生活する地域や国への誇りとなり、自分もまたその成果を未来へ受け継ぎ、より発展させていこうとする意欲につながっていく。文化や伝統を育てた先人の努力をするだけではなく、自分もまたそれを継承し、発展させていこうとする考えを育みたい。
- ・6年生となり、自分達が北方踊りの継承者となって、伝統を引き継ぐ体験を重ねていく中で、本当に伝統や文化を大切にすることとはどういうことなのかを考えていきたい。
- ・本学級は、伝統や文化を守るという意識が低い。北方踊りや地域の歴史に触れることを通して伝統を引き継ぐことの素晴らしさを感じ、自分も後世に残す役割を担っているように指導したい。

■内容項目から見た児童の実態（意識）

- ・最高学年として北方踊りの練習や学校行事を意欲的に取り組もうとする。
- ・北方踊りを引き継ぐことの大切さを自覚し、活動することの大切さを理解している。しかし、引き継ぐことの大切さを忘れ、進んで練習や行事に参加することができないこともある。

■意識の要因

- ・先人の努力や知恵を知る機会が少なく、学習活動において、郷土や文化との関わりが少ない。
- ・これまでの生活や学習活動において、主体的に歴史を自分で調べることが苦手で、活動を教師に指示もらうことは当たり前だとどこかで考えており、今までに自分で興味をもって調べる経験が少ない。

■教材の分析

- ・主人公である山本さんは、唐招提寺の改修工事に携わることで、歴史的な建造物の修理ができるとあって、快く引き受けた。伝統に携わる高い思いに気付くことができる。
- ・数多くの文化財の修復を手掛けてきた山本さんでも、成功する確率が10%あるかないかという、これまでにない難しい課題であった。それでも瓦を研究し、修復に取り組む山本さんの心の中に思いをはせ、修復に挑む姿を深めることができる。
- ・試行錯誤を繰り返し、見事に鴟尾を完成させる。屋根瓦は、伝統の技術を大切に、できるだけ長くもつ瓦を作ろうと努力し、創建当時から残っている瓦など貴重な古い瓦を生かして葺き替えている理由を考えることで伝統を引き継ぐ主人公の思いに気付くことができる。
- ・唐招提寺金堂での作業が終了してからも、山本さんは自分が身に付けた技術を後世に伝えていこうと職人の育成に力を注いでいる理由を考え、その姿から、伝統や文化を知るだけでなく、自分達もまたそれを継承していかなければならないという意欲をもつことができる。

■ねらい

現代に伝えてきた先人の努力を知り、自分もまたそれを継承させていくことが、郷土を守り、大切にすることにつながることに気づき、自分も伝えていこうとする心情を育てる。

■展開の構想

- ・自分の仕事を最後まで果たそうとする気持ちを深く考えさせることを通して、今まで多くの職人達が大切に、伝えられてきた日本の伝統的な文化財を何とか後世に残していきたいという気持ちに気付く。
- ・修復に携わる山本さんの気持ちを考えさせることで、歴史的な遺産を大切に守ろうとしていこうとする思いを感じさせる。
- ・瓦を研究し、修復に挑む山本さんの気持ちを見つめ、その思いを考えさせる。
- ・伝統や文化を育て、伝えていくことについて振り返りながら、自分の生活を見つめることができる。

■基本発問（◎中心発問）

- ◎「まだ、満点の仕事やない。」と言う山本さんには、どんな思いがあるのだろう。
【深】・しっかりした修理ができたのだから満点と言っていいんじゃないの。
・修理は完成したのに、その上で、何が必要だと言うの。
- 「千年残る仕事をせなあかん」とはどういうことか。
- 山本さんは、後を引き継ぐ職人たちに技術とともに、どんな心を伝え続けているのか。
- 地域の伝統や文化について、自分達が引き継ぎ、次へと伝えていきたいことはあるか。

■「わたしたちの道徳」の活用（授業前・授業中・授業後・活用しない）

学級の時間にP164からP169までの伝統や文化について調べたいことを書き込み、実践できたら色を塗る。P166では、みんなで話し合いながら「日本らしさ」について学ぶ。

4 学習指導過程

観	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	指導・援助
<p>気付く</p> <p>／</p>	<p>1 唐招提寺について説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000年以上も前のお寺。 ・日本の国の国宝となっている。 <p>2 「千年の瓦を作る」の話を聞いて、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的に価値の高い建造物の修復に携わることができて誇らしいという気持ちはわかるなあ。誰でもできるものではないので選ばれたというのはやっぱりすごいなあ。 ・完成したのに「まだ、満点の仕事やない。」というのはどうしてだろう。 <p>3 感想をもとに、主人公について話し合う。</p> <p>◎「まだ、満点の仕事やない。」と言う山本さんには、どんな思いがあるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成して本当に良かった。でもまだやり残したことがたくさんある。 ・自分ひとりの力だけではない。多くの仲間と共に頑張ってきたから完成することができた。 ・この努力を後世にも継いでいってほしい。 <p>【深めの発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした修理ができたのだから、満点と言っていいんじゃないの。 ・修理は完成したのに、その上で、何が必要だと言うの。 <ul style="list-style-type: none"> ・修理は満点かもしれない。でも山本さんの仕事は修理だけではない。このままでは終われない。 ・山本さんが引き継いできた伝統を受け継ぐだけでなく、次の後輩へと引き継がれた時が技術だけでなく心が伝えられたことになる。 ・1000年先にも残る技術と伝統を守ってほしい。これからも意志を後輩達に引き継いでほしい。 <p>○「千年残る仕事をせなあかん」とはどういうことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の職人に負けようがないように、これから先もずっと残るものを作っていこう。そうすれば、きっと次の世代に残る物につながり、引き継いでいってもらえるようになるだろう。 <p>○山本さんは、後を引き継ぐ職人たちに技術とともに、どんな心を伝え続けているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で終わらせない。技術だけでなく、心があるから技術を使っていこうと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝の意味や修理の話など知っていることを話し合うことで、本時の価値への方向付けを行う。 ・唐招提寺の写真や映像を用意し、社会科で学習したことを想起させやすくする。 ・主人公について「すごい」「どうしてだろう」という視点で感想をもたせる。特に「すごい」という視点で感想をもたせる。 <p>研究内容(2)②(多様な授業展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山本さんの努力に焦点を当て、成し遂げていく上での心の内面に目を向けさせる。
<p>見つめる</p> <p>／</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この努力を後世にも継いでいってほしい。 <p>【深めの発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした修理ができたのだから、満点と言っていいんじゃないの。 ・修理は完成したのに、その上で、何が必要だと言うの。 <ul style="list-style-type: none"> ・修理は満点かもしれない。でも山本さんの仕事は修理だけではない。このままでは終われない。 ・山本さんが引き継いできた伝統を受け継ぐだけでなく、次の後輩へと引き継がれた時が技術だけでなく心が伝えられたことになる。 ・1000年先にも残る技術と伝統を守ってほしい。これからも意志を後輩達に引き継いでほしい。 <p>○「千年残る仕事をせなあかん」とはどういうことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の職人に負けようがないように、これから先もずっと残るものを作っていこう。そうすれば、きっと次の世代に残る物につながり、引き継いでいってもらえるようになるだろう。 <p>○山本さんは、後を引き継ぐ職人たちに技術とともに、どんな心を伝え続けているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で終わらせない。技術だけでなく、心があるから技術を使っていこうと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>郷土に残る伝統や文化を知り、自分もそれを大切にしながら伝えていくことが郷土を守る。</p> </div>	<p>研究内容(2)②(深めの発問の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考に沿わせることができるようにいくつか用意する。 <p>研究内容(2)②(語り合いの工夫:小グループ交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを交流し、多様な考えに触れさせる。 ・自分の体験とつなげて、理由をつけて話すように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の主題に迫ることができるように、「伝統を受け継ぐだけでなく、次へと引き継ぐ」に焦点化して深められるようにする。
<p>深める</p> <p>／</p> <p>見いだす</p>	<p>4 今も残る伝統や文化について、自分の生活とつなげて振り返る。</p> <p>○地域の伝統や文化について、自分達が引き継ぎ、次へと伝えていきたいことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生として、北方踊りを練習してきたけれど、最後まで伝統を守るという気持ちで頑張っていきたい。 ・北方踊りを練習してきて大変だけど、地域で守っていくものだから大切にしたい。 <p>5 北方踊りの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細野さんの話から北方踊りに対する思いを知り、感想をもつ。 <p>6 本時の自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公「わたし」と自分を重ねて考えることができたか。 ・仲間の意見につないで自分の意見を話すことができたか。 ・授業の中で自分の考えに変化があったか。 	<p>研究内容(2)①(振り返りの工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方踊りの練習での自分を振り返り、その時の気持ちや、今どう思うか、自己の意識と行動を振り返ることができるようにする。多様な場面を想定し、ねらいに迫っている児童を意図的に指名する。 <p>研究内容(1)①(終末の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオレターを使った地域人材の活用をする。 ・細野さんからのビデオレターを視聴することで北方踊りを守り伝えていこうとする思いに触れ、自分の考えを深められるようにする。

5 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

	<日常生活>	<教科・特活>	<児童の意識>	<指導・援助>
通学班 ・下級生をまとめて安全に登下校できるように声をかける。 掃除 ・ふれあい班（縦割り）掃除で、低学年の人にやり方を教えながら、ぴかぴか掃除を行う。 日直活動 ・決められた仕事を、誠実に忘れないで行う。 地域 ・誰にでも気持ちのよいあいさつをし、困っている人を見かけたらその人の気持ちを考えて行動する。		7月（国語） ようこそ私たちのまちへ 遠くから訪ねてくる人に、自分が住んでいる町を案内するとしたら、どんなところを見てもらいたいかなパンフレットを作って発表しよう。 ・まとめていくのは大変だけど、自分の町のよさを知って、好きになってもらいたい。	・地域に残る史跡を調べることで、揖斐川町の古くからの歴史に興味・関心もてたなあ。 ・表情や声の調子をやわらかくして、相手に伝えていけばよいかなあ。	・教科での学習では、自分で調べたり、進んでまとめたりすることができるように指導する。 ・話し方の工夫をすることで相手に言いたいことを理解し、実際に練習する。
		9月（総合的な学習の時間） 運動会のめあてを決めよう 1学期の練習と講話からこれからの練習について目標を作ろう。	・進んで北方おどりの練習を行うことができた。 ・もう少し考えて見通して活動できるとよい。 ・24人で運動会を成功させよう。	・4月から伝統の継承者として責任を果たして練習に努力してきた児童を具体的に紹介し、一人一人のよさを学級で認め合う。 ・運動会を成功させるために、一人一人励ましながら、声かけや練習の分担を決める。
		・全校に「北方踊り」伝えていくためにたくさん練習しよう。そしてこれからも引き継いでいってもらいたい。		
		9月（社会） 江戸文化と新しい学問 町人の文化や新しい学問が生まれたことに興味をもとう。	・江戸や大阪を中心に日本の伝統芸能が生まれた。北方踊りもこの頃から始まったのだろうか。	・江戸や大阪の発展の様子から、郷土につなげて関心をもっている児童を価値付ける。
		・講師の細野先生から北方踊りの歴史を聞いたよ。みんなの願いが込められた踊りだったんだ。		
		9月（学校行事） 運動会 北方踊りを発表することができる。 ・今まで練習してきた成果を出すことができた。	・今まで練習してきた成果を精一杯発表しよう。	・仲間と力を合わせたり、協力する姿を価値付ける。

道徳の時間（本時） 郷土愛・愛国心 資料名「伝統文化を受け継いで」

本時のねらい

現代に伝えてきた先人の努力を知り、自分もまたそれを継承させていくことが、郷土を守り、大切にすることにつながることに気付き、自分も伝えていこうとする心情を育てる。

学級活動 ・学級目標に照らし合わせて、成長したことで、課題を明確にする。	12月（社会） 新しい日本、平和な日本へ 戦争が終わった後の社会の変化に興味をもとう。	・この頃でも伝統を守ろうと頑張っている人がいたのだろうか。	・戦後の日本の様子と復興を郷土と関わらせながら考えている児童を取り上げ、価値付ける。
	・岐阜県や揖斐川町はどのように復興に向かったのか。		
	12月（学校行事） ひびきあいの日 6年生として学校の伝統を守っている活動を意識し、継続した取り組みをつなげていくことができる姿を発表する。	・伝統の継承者としての自覚が芽生えるようになった。 ・在校生の立場に立って考えるようになった。	・「最高学年としての自覚と責任」を目標に、自分の活動を振り返りながら6年生としての姿を取り上げ紹介し、価値付ける。
	・仲間の気持ちを考えて行動することを続けたい。		

郷土に残る伝統や文化を知り、自分もそれを大切にしながら伝えていくことが郷土を守る。

どんな心を伝え続けているのか。

- ・自分で終わらせない。
- ・いつまでも大切にしている。

・これで終わらせてはいけない。
 ・職人としての技術はもちろん、それを引き継ぐための努力。

「まだ、満点の仕事やない。」

・技術はもちろん、これから伝えていかなくてはいけないものがある。
 ・修復以降も守っていかなくてはならない。

「千年残る仕事をせなあかん。」

- ・昔の職人に負けたくない。
- ・ずっと残るいいもの作りたい。



千年の瓦を作る 山本清一